

# 正月でも仕事の親を待つ子どもたち—— 保育士と一緒に大掃除や紅白観賞

第2のわが家

# 夜間保育所の年末年始



※写真はイメージです

小さい子どもを抱えて深夜まで働いている家庭は少なくない。だが、さまざまな事情から子どもを見てくれる身内や友人がいらない場合、親たちは夜間保育所を利用するしかない。年末年始であつてもだ。

夜間保育所とは保護者が夜間に働く必要がある場合や、な

夕方から夜にかけて子どもたちを預かる「夜間保育所」。大みそかも元日でも働かざるをえない親たちがいるため、中には365日24時間運営している保育所もある。子どもたちは年末年始をどのように過ごしているのか。運営側に聞いてみると――。

元日は仕事だった。普段利用している夜間保育所が冬休みになったため、この年末年始は認可外の夜間保育所を一時利用した。

「夫も私も1年でいちばん忙しい時期。最近は休みの申請もしやすくなってきましたが年末年始はなんだかんだ働かざるをえなくて……。実家は遠方であり、新年は親戚付き合いもあるので応援に来てもらうこともできない」



※写真はイメージです

では、ほかの夜間保育施設も年末年始は似た状況なのだろうか。全国夜間保育園連盟会長の酒井義秀さんに聞いた。「年末年始でも大きく保育内容を変えることはありません。食事や散歩、お昼寝などいつもと同じことを生活の中で繰り返して行うことで次に何をするか見通せ、子どもたちは安心して過ごせます。食事や午睡時間などは家庭ごとの生活リズムに合わせて保育所で過ごすことが大切と考えています。ただ、保育所内の環境として正月にまつわる制作

お話を聞いたのは  
全国夜間保育園連盟  
酒井義秀さん

酒井さんが会長を務める同団体は認可夜間保育園の全国組織。現在、認可夜間保育園60か園が加盟する。運営時間や方針などは所属する園それぞれで異なる。



用者は減少傾向にあります」

(酒井さん、以下同)

コロナ禍で仕事の形態が変化したこと、緊急事態宣言下で休業する飲食店なども多かつたことが理由として考えられる。一方、利用者の職業も変化がみられるという。

「最近の夜間保育利用者はキャリア型に変わってきています。マスコミや警察、消防、官公庁の公務員、医師などです。普段は夜遅くまで働いているので利用しますが年末年始は休みが確保されていると考えられます」

だが、夜間保育所に対する「大変な家庭の子」や「貧困家庭」などの利用者が多いと偏ったイメージはいまも払拭されていないという。

保育の量的な拡大、保育士の確保と保育の質の改善などを目的にした子ども・子育て支援新制度が2015年改正されたのだが、今なお現場とのすり合わせも続いている。

「深夜や年末年始など働かざるをえない社会では保護者の負担が大きい認可外保育施設に預けざるをえないこともあります。ですが国としても子育て家庭の自助に頼るのではなく、公助として社会に必要な制度・環境を整えられ、すべての子どもに保育ができるような社会をつくってほしいと願っています」

24時間社会。いつでも誰か

が働いている。

そんな中においても子どもたちを第一に親子に真摯に寄

り添う保育士たち。「第2のわが家」で子どもたちは育まれる。

### キッズタウンうきま夜間保育園 (東京・北区)

## きょうだいみたいなの絆

## 自宅のような夜間保育園

東京・北区の「キッズタウンうきま夜間保育園」。今年で15年の認可夜間保育園だ。

「この年末年始も数名の園児をお預かりしました。年末年始を意識しているのは大人だけ、子どもたちにとっては普通の日。ただ、園の様子もいつもとはちよつと違うので寂しい思いをさせないよう心がけています」

そう話すのは同園園長の小林美樹さん。12月31日の大みそかは7人。元日と2日には

1人が登園してきたという。「年末は家庭では大掃除をしますよね。そこで園でも子どもたちと一緒に大掃除をしました」(小林さん)

年末年始の少人数だからこそできること。子どもたちの中には年末登園常連のきょうだいがいる。両親は蕎麦店を営んでおり、この日は1年でいちばん忙しい日だ。

「子どもたちも大みそかの両親の仕事のことは理解しており、園での過ごし方を自分たちで提案するように

なってきました。昨年大みそかの数日前から、紅白も見ようとかあの番組も見ようねとか、自分たちの過ごし方を考えているようでした。

普段から心がけていることですが、自宅で過ごすのとなるべく変わらない時間を過ごさせてあげたいと考えているんです」

食事も正月だからと特別なものを出す



キッズタウンうきま夜間保育園の教室。この部屋で子どもたちは一緒に夕食をとる。現在は正面を向いて食べるなど感染症対策も

お話を聞いたのは  
キッズタウンうきま夜間保育園  
小林美樹さん

鳥取県米子市に本部のある社会福祉法人こほうえんが運営。夜間保育園には現在0歳から6歳の25名が在籍している。そのほか郡内8か所でも保育園や高齢者施設などを運営している。

のではなく、いつもと変わらないものを提供。

同園での年末年始以外の時期の過ごし方も尋ねてみた。「夜間保育園の保育時間は午前11時～午後10時が通常。この時間帯の前後は延長料金がかかります。11時にそろって外遊びをし、昼食。お昼寝などを食べて、子どもたちは夕食も食べて帰ります。午後7時～8時がお迎えのピーク、午後11時まで待つ子どもも寝ている子どももいます。各家庭での生活リズムを守り、子どもにはどんな対応をすればいいか保護者と相談しながら保育しています」

子どもたちにとっては自宅よりも長く過ごす場所。そのため、なるべく家庭のよう過ごすことを目指す。

「夜間保育というところ、夜遊はしているの？」と誤解されることもあります。ですが子どもたちの生活が夜に偏らないよう、生活リズムを守るために、ほどよい刺激を念頭に置き保育をしています」

夕食後は時間を決めてテレビを見たり、パズルやゲーム、本を読み聞かせたりして



同保育園の教室。まるで自宅の一室のようなアットホームな造り。ここで子どもたちは過ごす

ゆつくりするという。異なる年齢の園児が一緒に過ごすのも夜間保育園のよさ。年上の子が下の子の面倒を見るなど、ひとりっ子の家庭の保護者からは貴重な時間だと喜ばれることも。

さらに同園は昼の保育園も併設しており、夜間の3～5歳のクラスの園児は日中、昼の同年齢のクラスに合流。夕方、帰ってくる。

「合奏や大人数での遊びなど夜間の少人数ではなかなか経験できないこともあります。子どもたちは日中経験したことを今度は夜間保育でも披露してくれています」

例えば昼のクラスでクリスマス会をした夜間の園児たちは、今度はさらに小さな子どもたちを招いて「クリスマス会」をする。

「夜間のクリスマス会をする」と子どもたちが企画して、保育室と一緒に飾り付け、年上の子たちが年下の子

に歌や合奏を披露、子どもたちがお話の読み聞かせをする  
こともありました」

家族やきょうだいのような  
強い絆で結ばれているのだ。

「私たちは決して親御さんの  
代わりにはなれません。親に  
とつても子どもにとつてもお  
互いがいちばん。子どもたちは  
本当は寂しさを抱えていた  
としても、子どもたちはそれ

を見せないように頑張ってい  
るのかもしれない。だから  
私たちは親御さんのお迎えま  
でを安心して一緒に待ってい  
られる人であるといいな、と  
思っています」

夜間保育を利用する家庭は  
決して多くはない。だが必要  
としている人がいる。今日も  
夜間保育園は親と子に寄り添  
ってくれている。